


環境で地方を元気にする 地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

活動団体名：  亀岡市
水と緑とにぎわいのまち

活動地域： 京都府亀岡市を
中心とするエリア



活動テーマ：

環境を軸とした地方創生SDGs

1

地域循環共生圏を活用して目指す地域の姿



2

地域の現状と課題

◆ どんどころ？

- ・京都市から電車で20分、人口9万人弱の「トカイナカ」
- ・京野菜の一大生産地



◆ 「強み」は高い市場ポテンシャル

- ・市域から車で1時間圏内の人口は1,640万人。大都市の近郊に位置する交通アクセスの要所
- ・観光客数、消費額は成長（291万人・75億円）

◆ 「弱み」は希薄になりがちな郷土愛

- ・市外への通勤通学者が人口の2割弱を占め、ベッドタウンゆえに市民の郷土愛が希薄になりがち
- ・京都市の陰に隠れ、まちの知名度が低い

◆ 地域資源

- ・湯の花温泉
 - ・保津川下り
 - ・トロッコ列車
- 三大観光資源
- ・亀岡牛や京野菜に代表される質の高い農畜産物
 - ・京都スタジアム（京都サンガF.C.）
 - ・芸術家のネットワーク（かめおか霧の芸術祭）

◆ シビックプライド・地域ブランドが弱い

- ・人口の流出(年間400人)や高齢化(29%)が進む中で、ヒトを惹きつけるシビックプライドの醸成、地域資源の付加価値を高める地域ブランドの確立が急務

◆ 地域経済循環率(71%)・住民所得(413万円)が低い

- ・昼間人口が少なく（昼夜間人口比率85%）、産業集積が進んでいない。民間投資や消費が流出する結果、域内資本が域内生産に還元されない

☆「シビックプライド」（郷土愛）の創出
⇒まちづくりへの参加、地産地消の促進

☆環境を軸にした地域ブランドの確立・発信
⇒企業誘致、移住定住、交流人口の増加

☆地域循環共生圏の構築
⇒地域経済循環率・住民所得の向上

3

地域循環共生圏を活用して目指す地域の実現のために

①多様な主体の巻き込み、②発信力、③持続可能性の観点から、以下の3つを舞台装置として、具体的な事業を展開。

世界に誇れる環境先進都市かめおか協議会



- ・2019年4月に発足
- ・産官学36団体で構成
- ・地域循環共生圏の実現に向けた協議
(ex.レジ袋禁止条例の制定に向けた協議)

地域資源を体感するかめおか霧の芸術祭



- ・2018年度から開始
- ・住民参加型の芸術祭
- ・アート×企業×行政による価値の創造
(ex.廃棄パラシュート生地のエコバッグ)

亀岡の新たな顔となる京都スタジアム



- ・2020年1月に開業予定
- ・京都サンガの本拠地
- ・環境を軸とした地方創生SDGsを体現
(ex.リユース食器や地元野菜マルシェ)

4

今後の事業取り組み予定

◆ 昨年12月、環境先進都市の実現に向け、「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」を市議会と共同で発出。取り組みの第1歩として、市内6事業所12店舗と協定を締結し、本年8月20日からレジ袋の有料化を開始予定。2020年中の「プラスチック製レジ袋禁止条例」の制定・施行を目指す。隣接する他市にも呼びかけ

◆ 「環境先進都市かめおか」を目指し、企業・市民とともに今年度から取り組む事業



◆ スタートアップ資金の調達については、府内トップとなったふるさと納税(2018年度6.1億円)の利用や、そのノウハウを活かしたクラウドファンディングを実施予定。また、地域金融機関の人材・ネットワークを生かしたプロジェクトを検討中

5

スケジュール (令和元年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事業全体の予定				◇請負業者決定 ◇事務局設置 ◇キックオフミーティング				現地意見交換会		◇中間報告書提出期限 活動団体成果報告書提出◇		◇成果発表会 ◇シンポジウム
ビジョンの策定							ビジョン及びロードマップ2030作成					◇对外公表
「世界に誇れる環境先進都市かめおか協議会」	◇協議会設立	◇協議会開催										◇条例のパブコメ・制定
かめおか霧の芸術祭												◇芸術祭コアイベント ※亀岡を象徴する「霧」が1年で最も美しい時期
他パートナーの巻き込み												年間を通して各プロジェクトにおいて企業に働きかけ

6